

平成24年度 第4回石巻市震災復興推進会議 会議録

日時：平成24年11月4日（日）

午後1時30分～午後4時40分

場所：石巻市役所

庁議室及び401会議室

【出席委員 20名】

氏 名	所 属	備 考
阿 部 勝 治	桃生地区住民代表	
阿 部 洋 子	石巻市民生委員・児童委員協議会 会長	
阿 部 力太郎	宮城県漁業協同組合 代表理事理事長	
石 川 壽 一	いしのまき農業協同組合 代表理事組合長	
伊 藤 和 男	特定非営利活動法人石巻市体育協会 会長	
浮 津 文 好	河北地区住民代表	
尾 形 和 昭	株式会社街づくりまんぼう 代表取締役副社長	
小野田 泰 明	東北大学大学院工学研究科 教授	副会長
兼 子 佳 恵	環境と子どもを考える会 代表	
久 門 俊 勝	社団法人石巻市医師会 副会長	
西 條 允 敏	石巻市文化協会 会長	
佐々木 文 彦	北上地区住民代表	
菅 原 秀 幸	社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 事務局次長	
高 橋 和 子	河南地区住民代表	
永 沼 紀 男	石巻地区住民代表	
山 崎 信 哉	石巻市仮設住宅自治会連合会 会長	
馬 場 利一郎	石巻市身体障害者福祉協会 会長	
藤 井 勝	貞山三・四・五丁目自主防災会 会長	
丸 岡 章	石巻専修大学 理工学部長	会長
吉 田 忠 美	石巻市町内会連合会 会長	

【欠席委員 5名】

浅 野 亨	石巻商工会議所 会頭	副会長
渥 美 克 之	牡鹿地区住民代表	
後 藤 宗 徳	社団法人石巻観光協会 会長	
吉 田 薫	雄勝地区住民代表	
山 上 勝 義	石巻市仮設住宅自治会連合会 副会長	

概 要

- 1 開 会
- 2 あいさつ（会長）
- 3 議 事

○会長 前回会議において、分科会方式を取り入れた。また、この会議の目的を確認したところであり、どうかたちでこの会議を機能させていくかという課題についても、引き続き検討していきたい。この会議で協議された結果を市の施策や活動に反映していただくためにも、実りのある会議にしていきたい。

(1) 各意見等に対する回答報告

- 復興政策課長 (資料「復旧・復興の現状」の説明)
- 復興政策課長補佐 (資料1の説明)
- 会長 分科会に入る前に、これまでの説明を踏まえ意見等はないか。
- 委員 事業に対するやる気、気持ちが見えてこない。できる事業なのか、何らかの課題によりできない事業なのか、時間がかかるなどの情報も示していただきたい。
- 委員 復興の現状について、着工や完了などの指標によりわかりやすく表示されていると思う。1ページ目の事業費については確定したものなのか。
- 復興政策課長 10年間の概算である。第4回目の復興交付金の配分可能額についても、12月中旬から下旬の予定であり、市の予算計上はその後になるため、概算としてとらえていただきたい。
- 委員 来年以降消費税が上がるが、そのことも踏まえているのか。
- 復興政策課長 すべての事業費は調査をした上で精度が上がっていく。現段階では消費税は含んでいない。
- 委員 復興計画の県・国との協議の状況は。どの程度の協議の段階でここに出しているのか。交通渋滞の緩和、日赤前の混雑状況、復興すればするほど混んでいる。市ではどうとらえているか。立体交差点にしてはどうか。そこまでの予算配分、計画ができるかどうか。
- 震災復興部長 事業費については、国との調整が完了し、確定しているものもある。例えば区画整理事業など。一方で公園事業など、これから協議を進めるものもある。市が計画している事業を列記している。
- 委員 市の独自計画ということだが、市民にとっては違う。市の計画だけではなく、国や県の事業も入ってくると思う。
- 会長 分科会に入る前の全体会なので、ここで新しく作り出して方向性を出していくという進め方をしていきたい。

(2) 分科会別に討議

- ◆ 住まい・環境分科会【会場：庁議室、座長：小野田副会長】
- ◆ 健康・福祉・教育分科会【会場：401会議室、座長：丸岡会長】

## 住まい・環境分科会

場所：庁議室

- 副会長 全体会での報告については、委員お願いしたい。会議録で報告いただいた内容をご覧ください。北上・河北地区の防潮堤の構造・高さについて、どうなっているか、国で行うもので粛々に行っている、というもの。町内会からの申し出があった用地確保についてその後どうなっているか。
- 復興住宅課長 空き地バンクへの登録のお願い等させていただいた。住宅に関しては、公募の説明会をさせていただいた。確保については、町内会長へ相談させていただいた。
- 委員 住吉地区は12地区あるが、震災復興部理事に来ていただき説明いただいた。町内会としても協力することになっている。
- 副会長 推進会議が役に立っている。今後の住まいアンケートの実施要望については。
- 震災復興部長 集団移転で個別相談会を実施する。各地区のイメージ図を提示する予定。市民が選択できるイメージを提示したい。
- 副会長 企業等が出て行かないようなイメージ作りをお願いしたい。
- 産業部長 企業のニーズ・意向調査を実施し、集計中。今後の計画に反映させたい。
- 副会長 渡波稲井線の件は。
- 基盤整備課長 調査費をいただいております、用地費、工事費を要望していく。
- 委員 土砂が足りないという話もあるが。
- 基盤整備課長 測量と山越えの土砂をボーリング調査しており、適する土砂かどうかを調査の上活用したいと考えている。
- 副会長 半島部の住宅、家賃の軽減化、若者がいなくなるような定住対策と公営住宅整備は。
- 復興住宅課長 半島部に人を残すように公営住宅の家賃を軽減するという話。半島部であれば、市街地の集合住宅とは異なり戸建てを考えており、標準的なプランをお示しできるように考えている。できるだけ住んでいただけるようを考えているが、家賃についてはもう少しお待ちいただきたい。
- 副会長 消防団について、地域の中核となる方が市外へ流出している。
- 防災対策課長 消防団は前回と同じ状況。団長と話をしているが、まちづくりを見ないと進められない。常備消防は牡鹿消防署の整備を予定。北上・雄勝も順次進めていきたい。
- 副会長 二子地区の集団移転については。
- 河北総合支所長 二子地区の集団移転については、移転先地権者の8割が合意の状況。現在個別交渉を続けており、鋭意進めていきたい。
- 会長 河北と雄勝の方がいるが調整状況は。
- 河北総合支所長 面積等の調整を行っている。

- 副会長 半島部における高台移転のスピード化は。
- 集団移転促進課長 半島部は48地区を予定。大臣同意を得た後のスピード化について望まれているが、各移転対象者の意向調査により最終確定、世帯数、移転先地、借地か災害公営住宅か、がけ金事業か、空き地バンク等を示し、その後実施設計をし、大臣同意を変更するため、早いところの着手を年度末にできれば。
- 委員 いただいた資料3-2のスケジュール一覧で半島部の48集落では造成完了が伸びているが、牡鹿、雄勝、北上、河北の具体的な進捗を教えてほしい。
- 集団移転対策課長 各地区の早期着工は例えば小室、鹿立浜は早期着工を予定している。他の地区の桃浦などは次に見込んでいる。
- 委員 地区の方から来年の今頃自力再建できそうだという話があったが、いつから目途がつくのか、遅れている要因としての説明をしてほしい。
- 集団移転対策課長 遅れているわけではなく、測量地質調査をしているところであり、個別説明等を行い、実施設計をして、計画変更を行うため必要な月数がかかるものと考えている。
- 副会長 アスベストモニタリング等を市民へ周知すべきではということについてどうか。
- 生活環境部長 6次モニタリング調査をしている。3Pから6Pの調査をし、通常と変わらない旨ホームページにて公表している
- 副会長 ホームページだけではなく、市報等で公表するなど検討を。
- 震災復興部長 多くの市民への公表は、市報の臨時号と先月から瓦版というペーパー(A3サイズ)を仮設住宅向けで作っており、直近の情報を掲載している。
- 委員 市民への情報提供は難しい。地元紙の協力を得られないか。安価でもしくは紙面を買って、伝えられないか。
- 震災復興部長 現在はお金がかからない方法でお願いしている。地元紙には打診してみたい。
- 副会長 前回話した内容で補足があれば。
- 委員 がれき処理は進んでいるのか。
- 生活環境部長 8月の段階では県28%、石巻市は28.7%となっている。1次仮置き場への搬入は市の担当、県は中間処理、最終処分となっている。焼却処理の5機が完成し、フル稼働している。リサイクルはチップ化し、バイオマスボイラーに使用している。また、建築資材等にも使用し、終了目標に向かい進んでいる。
- 委員 東松島市は搬入段階で分別している。
- 市長 処理はブロック(広域)で行っており、石巻、東松島、女川の処理をしている。東松島は運ぶだけである。2,000人規模の雇用を生み出しており、その面でも貢献している。
- 副会長 渡波などは、地区別に区画整理や住宅など、地域の方と共に考える仕組みを検討してはどうか。
- 市長 まちづくりを進めていく上で、地域の方が意見を聴き進めていくのはすばらしい

ことであり、タタキ台とするものができた段階で協議会を立ち上げるなどご協力いただきたい。

- 副会長 スピード感を上げるのと住民合意を得ることの難しさはあるが、自分たちのまちづくりに住民の意見を反映させることは必要。
- 委員 半島部の若者を定住させるための家賃の軽減について、集落が崩壊しようとしている中、とるだけの漁業から加工まで踏み込んだ働く場所をつくるのが肝要である。地域とともに定住を確保する。2点目は消防団、常備消防が駆けつける時間まで待てない地域での消防団は必要ある。提言だが、南浜町の公園をつくるのに、石巻の風土にあった世界各国の樹木を植えてはどうか。JRの複線化については、沿岸部から内陸部への切り替えに合わせ、複線化を進めてほしい。
- 産業部長 これまでの産業を元に戻し、集落の移転にあわせ、地区の意見をいただき、集落をどうしていくかを検討していきたい。
- 基盤整備課長 南浜公園については市民の方の意見をいただきたいと思っている。小学生、中学生、国の考え方を踏まえ、市民の意見を取り入れたいと考えている。
- 副会長 面積が広大であるので、維持管理もかかる。そうした部分も踏まえた検討が必要である。
- 委員 半島部についてはボランティアが細かく入っていたが、今はそれもなくなりつつある。
- 委員 農業の将来展望を考えた場合、集落で維持していくと考えており、法人化もある。高齢化とともに、漁業にも集団で漁業をし、経営できないか、活性化できないか。
- 委員 今現在の漁業は、船・漁具等99%を失ったが、国県等の支援をいただいている。漁港の嵩上げが進んでいないため、高台移転等の土砂を使っただけ、進めていただければ加工場などは補助金を活用できる。
- 産業部長 漁港の災害復旧がたくさんあり、3年から5年かかる見込み。何が早期に必要な協議させていただき、進めている。マンパワー不足のため、入札の不落もあるが、努力しており、ご理解いただきたい。
- 市長 漁港の整備は進めているが入札の不調もある。高台移転も含め進めていこうとしている。造成を進めるにあたり、切土したものを跡地に使うことも考えている。跡地利用についても、考えていきたい。
- 副会長 漁獲高が高いところから早く進めていくなど、旧総合支所の中心部の小都市は人が戻っていかない。軌道に乗せていくのは難しい。解決策があるわけではないが、より努力を続けていただきたい。
- 委員 市長が上京し、国へ陳情等を行っていただいているが、線引きから外れた方の支援はどうなっているか。仙台、女川等他団体の支援状況を聞くため、教えていただきたい。要望の状況・内容をお示しいただきたい。釜町内会長から、復興の状況は教えていただけるかと質問があった。役所に聞けば教えてくれるが役所から町内会長へ教えるなどの対応をお願いしたい。

- 市長 地区により、利子補給が受けられるなど線引きがある。個人資産の形成にかかり、難しいが独自支援は検討中である。財政面から非常に厳しく、国からの支援がないと独自支援策は厳しいが、やる方向で検討中である。
- 副会長 仙台市は（被災地域が）一部なのでできるが、石巻市では難しい、非常に厳しい判断となる。
- 委員 国の支援がなければできないので、なんとか受けられるようお願いしたい。
- 委員 先日、仮設住宅団地に安住幹事長代理が来た。各団体の格差があるが、個人資産の形成のため、難しいとの話だった。法の下に平等なので、国民の生命財産を守るのは国であるとの話はした。復興のための予算を集中し、お願いしたいと話をした。各地区の代表の方がいるが、旧市はひとつであるが各地区の意見も聞いてほしい。
- 委員 責任があるため、各会議に入るが、市報を読んでいる方を聞くと、読んでいないという回答が多い。面白しろくないという意見。
- 副会長 どのような意見があるか。
- 委員 広報が足りない。
- 委員 行政から説明を受けるが、復興庁からOKがでるまで説明できないなど、という話が多い。市として要望しているが復興庁が渋っているというところを示してほしい。最近、怪しい土地買いが入ってきており、シャッターを勝手にあけるなど注意はしている。
- 市長 どうなるかわからない部分までは事務方は話ができない。
- 基盤整備課長 地域に入り、買い取りや住まいの話をさせていただいている。11月の説明会でお話をさせていただくとともに、市報瓦版で情報を届けたいと考えている。

## 健康・福祉・教育分科会

場所：401会議室

- 会長** 約90分間をめどに会議を進めたい。まずは追加資料の説明を。
- 福祉部長** (追加資料の説明)
- 教育事務局長** (追加資料の説明)
- 学校教育課長** (追加資料の説明)
- 会長** 福祉部と教育委員会からの説明があった。進め方として、テーマごとに意見をいただきたい。全体会議での報告は、委員にお願いしたい。まず、被災者支援関係について、ご意見をお願いしたい。
- 委員** 市立病院について、前回会議の翌日、議会の委員会が開催され、議決された。非常に喜ばしい。ただし、決定が遅れた分の資金繰りの問題がある。大崎市民病院の例だが、老朽化に伴い、移転新築(200億円で500床)を決めていた。しかし、震災で当初の計画よりも3か月遅れたことにより、震災後の建築資材の不足や作業員確保の問題で、さらに6か月は遅れるとのこと。費用は1.3~1.5倍に膨れ上がるとのこと。100億円程度は増加する。大崎市だけで負担することは難しい。県の医師会などにも資金調達についての依頼がきている。市立病院の場合も、当初の工期がずれ込んでいるため、予算面での不安が出てくる。

また、日赤病院に勤務している先生方の疲労の問題もある。救急外来が急激に増加しており、重症でない人の受け入れを制限しなければ厳しい状況になっている。そうしたことから市立病院の資金面の問題と工期の短縮は重要な課題だ。
- 会長** 前回の会議で市立病院の早期整備を進めるべきとの話があったが、その後の経緯も含め説明をお願いしたい。
- 病院局事務部長** 前回会議で話が出ていたが、偶然にもその後議会の保健福祉委員会が開催され、7人の委員が全会一致で了承された。また、その後10月の日曜日、臨時議会において可決されたところである。現在は、基本設計と実施設計の準備を進めている。当初の予定よりも6か月遅れた分をどう取り戻すか。業者が決まり次第、工期の短縮について詰めていきたい。予算関係では、県の医療再生基金90億円を予定しているが、資材の高騰や消費税の問題もあるので、県と協議をしながら、上乘せ分についても状況を見つつ検討していきたい。
- 会長** 日赤の医師の疲労については大きな問題だ。
- 委員** 夜間急患センターが機能していない分、患者が日赤病院を訪れる傾向にある。震災前の倍以上の患者がおしかけてくる。急患センターの場所の問題か、アピール不足の問題ではないかと思う。
- 健康部長** 日赤から相談は受けている。月平均で約160人ほどの患者が増加している。入院に関しても2日程度しか対応できない状況であり、急患、救急ではない患者はできるだけ受け入れないようにしたいとのこと。夜間急患センターは現在仮設で開院しているが、場所がわかりにくいということもあり、患者数が半減している。その分、日赤や

ロイヤル病院の患者数が増加している。夜間急患センターについて、もっとPRを行うよう指導している。住民に対しては、できるだけかかりつけの病院に戻るよう訴えている。また、9月には「まちのほけん室」ということで、気軽に相談、血圧検査、健康チェック等のできる場所を設置した。阪神淡路大震災時に看護協会で実施したもので、県のバックアップの上開始された。来年度も継続する。

- 委員 市内で震災前と後の休診や廃院の状況は。ベッド数は減少したのか。
- 委員 8医療機関が廃止。残りは平常どおり。5医療機関が新しく開院したため、機能的にはもどっている。
- 健康部長 病院数としては10施設が7施設に。まち医者も場所を移転するなどして開院している。ベッド数は、市立病院の206床、雄勝病院40床、恵愛病院120床減少している
- 病院局事務部長 日赤病院では仮設で50床増やしている。
- 委員 仮設に入っている知人で、かびの菌で失明寸前という話を聞いた。市ではどう考えているのか。
- 福祉部長 そうした具体例は、市に対して情報が入っていない。もし事実であれば大ごとである。ただし、かびやダニなどの対策はとってきている。
- 委員 かびが目に入って病気になるのは聞いたことがない。何らかの病気を持っていた人ではないか。
- 委員 基礎疾患がなければ直接的にはならないということ。
- 福祉部長 見守り隊などを含め相談体制を作っているのだから、そうした話があった場合には随時相談していただきたい。市に直接連絡いただいても構わない。
- 委員 中心市街地の再開発の中で、再開発ビルの1階部分に病院をつくれぬか。また、まちなかの医師のニーズは。
- 委員 まちなかには居住者が少ない。津波による被害や建築規制により移転する例もある。市でも状況はつかんでいると思うが、民間医院の配置も考えてほしい。
- 健康部長 コンパクトシティの考え方は復興部でも進めている。1階部分に医療機関をつくり、上は居住スペースということだが、開業して採算がとれるかどうか、加味しながら計画することが必要だ。
- 会長 定期借地権の話はどうなっているか。
- 震災復興部次長 再開発事業については、現在準備組合を組織して進めており、居住スペースについては、市として公営住宅として買い取る計画である。
- 委員 見守り隊の訪問等で拒否される割合は。孤独死等もあるのか。
- 福祉部長 支援が必要な人は定期的に訪問している。断られる人もあるが、孤独死、いわゆる放置されたままの死はない。病気・肝硬変などで2名のひとり暮らしの方が亡くなったが、いずれも家族が近くに住んでいる。1人は定期訪問の際に発見された。
- 委員 アンケート調査を行っている。見守りをしてほしい人は4割。6割からは拒否したい旨の回答がある。



- 会長 拒否の理由は。
- 委員 知らない人に来られるという抵抗や、昼間働いているためなど。
- 委員 見守り隊は家に上がることが前提なのか。
- 委員 そうした決まりはない。見回りの仕方は、郵便物のチェックやとなり近所への聞き取りなどの手法もある。
- 委員 仮設住宅ではなく、一般のひとり暮らしの場合でも、民生委員が面会を拒否されるケースはある。そうした場合、離れたところからの見守りを行う。
- 委員 災害公営住宅のバリアフリーについての方針は。
- 震災復興部次長 基本的なガイドラインを設けている。バリアフリーだけでなく、車椅子対応の部屋等の基準を設けている。
- 委員 若い世帯もいずれ高齢者になり、体も不自由になる。バリアフリーのレベルをあげてほしい、健常者も5年10年でそうなる。
- 震災復興部次長 法や福祉のまちづくり条例に沿って対応していきたい。
- 復興政策課主幹 (大川小中学校に関する質問・回答について説明)
- 委員 大川小の児童数は。
- 教育事務局長 現在は21名。被災前は108名。
- 委員 移転する場合のエリアの児童数想定はあるのか。
- 教育事務局長 釜谷、長面などほぼ人がいない状況だが、21名の児童が通っている。居住地の問題で他の学校に転校させるなどし、減少したもの。
- 委員 大川小地区の被災世帯数は。
- 教育事務局長 大川学区内であれば、震災前2528人、震災後1540人、△1000人。
- 委員 先日、同地区の部落総会に出席した。約100戸のうち、同じ場所に住み続けたいと答えたのは1戸のみ。400年の歴史がある地区だが、今は何もなくなった。200人の地区住民が亡くなっている。これまで津波が押し寄せたことはない地区であったことも起因していると思う。死亡率で75%、今回のことを物語っていると思う。
- 委員 学校防災推進会議の委員はどのように選定したのか。副読本については、急いで作ったので薄いものになったと思うが、関係団体等との連携がもっと必要ではなかったのか。作成にいたるまでの経過を教えてください。
- 学校教育課長 震災後の新年度から防災教育をきちんと行う必要があったことから作成を急いだもの。作成のための会議は編集委員会を4～5回程度開催。とにかく1学期に渡せることを目標とした。内容の充実化については、11月に下巻を作成することとし、その中で、地震と津波だけでなく防災・減災の取り組みなどを掲載する。推進会議の委員の構成は小中学校、教育支援団体、消防等。学校教育の方針においても、防災教育を主体に入れ、教育課程に位置づけている。また、防災主任を今年度から設置し、授業や活動などで指導を行っている。
- 委員 民間団体どこか。
- 学校教育課長 セーブザチルドレン。

- 委員 もっと関係団体を巻き込むべき。11月に完成する下巻を見た上で改めて意見を言いたい。
- 会長 災害時、いざとなると思考力がなくなるもの。ポイントを絞った行動パターンを書くことが重要。
- 委員 マニュアル、学校教育の中で、子どもたちは休日に被災することの想定も必要。町内会を中心とした動きも重要で、特に高齢者や体の不自由な方の救済もある。市としての考え、取り組んできたことが活かされるノウハウ、役立つ方策を入れ込むとともに、人選も幅広く行っていただきたい。
- 会長 石巻専修大学でも三重大学で作成していたものを参考に作成した。対策の1つに逃げるときの手順を書いた「しおり」を作成したが、今ひとつわかりにくい。なかなか表現方法は難しいと思うが、津波や火事、原発等も含め、検討をお願いしたい。
- 委員 1つ提案を行いたい。大川小学校に防災公園の設置を提案したい。大川小を存置保存して、防災公園として整備、鎮魂碑、津波や防災の資料館等を複合させ、防災教育的施設として整備を。遺族からも残してほしいという声が入っている。公園化というやんわりした施設であれば、協力したいという意見が多い。
- 会長 検討の1つとして、考えていただきたい。

## 各分科会報告

### ◎ 住まい・環境分科会

- ・ 前回会議の確認。特に会議録の中で、進捗状況の確認を行い、進んでいる部分があることを確認。
- ・ 半島部についての意見交換。
- ・ 市民への広報、情報共有の重要性、何らかの方向性の検討。
- ・ 漁業、産業の再生の重要性
- ・ 自己完結、ボランティアを取り入れる。
- ・ 漁業の復興、嵩上げ問題、放射能問題等
- ・ 地域における消防団の話
- ・ 南浜公園は国定公園として世界に誇れるものを。
- ・ こどもたちの意見も含め、県・国と調整を進めてほしい。
- ・ J R 仙石線、東北線への乗り入れ、複線化の促進を。産官一体の取り組み。
- ・ 鮎川・雄勝の市街地の復興策の道筋、難しい。もう少し積極的な検討を。
- ・ 陳情の状況、できること、できないことを明確に。
- ・ 釜・大街道・南浜、町内会に対する説明を。市としても進める。

### ◎ 健康・福祉・教育

- ・ 援護資金の償還方法の変更（月賦、半年賦）、義援金の4次配分。
- ・ 市立病院、遅れる場合の資金繰り、工期の短縮。
- ・ 日赤の患者増加、夜間急患センターの利用促進、まちの保健室の活用。
- ・ 震災前後の医療機関数、病床数の比較。
- ・ まちなかの再開発の考え方で、医療機関等の併設について検討。
- ・ コンパクトシティの考え方で、市立病院を核とした介護・医療施設の整備。
- ・ 公営住宅は定期借地権による進め方もできるとのこと。
- ・ 仮設住宅訪問の拒否件数、6割程度が拒否等の問題。
- ・ 公営住宅のバリアフリー化、2階の住宅にエレベーター等すべて設置は難しいが、全戸バリアフリーで考えており、高齢者や車椅子対応等の対応は進める。
- ・ 大川小学校の児童数の変化。108名→21名、他地区に通っている児童もいる。
- ・ 教育委員会として学校防災推進会議を設置、防災教育、防災管理、地域連携を図っていく。
- ・ 防災副読本による防災教育の実施。（11月に内容を充実させ下巻を発行）
- ・ 大川小学校を防災公園化する提言。学校はそのまま残して、周辺を防災公園・防災記念館に。

#### 4 その他

○会長 会議の持ち方について、委員の意見を伺いたい。

○委員 分科会方式ということで、教育に意見があったが、全体会の中で、ある程度の時間をとってもらって、教育関係にも意見を言いたい。1つ言わせてほしいのは、大川小学校の件、文科省も大臣も来ていたが、遺族の方々と教育委員会との和解がなされない。市教育委員会が何らかの責任をとるべきではないかと思う。

○会長 市側も委員もストレスが募るのではうまくない。だれも復興を遅らせようとは思っていない。先へ進める方策のようなものを提案いただきたい。前向きの提案ができる会にしたい。

○委員 先ほどの委員の発言、国の第3者委員会ができています。この会議では言及すべきでないと思う。

進め方について、私たち素人の集団、例えばこういう事業に対してこう考えているというものを示していただければ、それに対する市民目線から見た意見は出せる。先行して検討しなければならぬ事業の中から、市民の意見を取り入れたいものをピックアップし、それに市の考えを示して、具体的な意見交換を行い、よりよいものにしていく。

○委員 基本計画の進行管理、説明をしてもらって、いろんな問題点があると思う。

いっしょに考えていく。ただ答えるのではなくて議論してもらおう。進行管理と提言に絞って運営してはどうか。

○会長 市側は情報を圧倒的に持っている。分科会方式の意見、説明が少し分かりにくい部分もある。市の職員は議会等で説明をしており、議員等も知識があるため理解は進むが、ぜひ、委員の発言のようにポイントを絞って、説明をお願いしたい。決まったものはいいので。この会議から出た意見が反映させるような流れで。この地域の人々の生業がしっかりしないと復興とは言えない。また、震災直後からのボランティアが引き上げた後、ワークする仕組みをつくっていくとか、ぜひ実質的な意見交換をこの会議でできるように努力していただきたい。

○副会長 住まい分科会では、かなり色々なことが進んでいる。土地の確保の部分で、委員からの連合町内会で解決するという話。行動に移してもらっている。タッグを組み始めた。今日は、地上げ屋が横行している話。基盤整備課から地権者協議会において予防を図っていく話があった。復興のビジョンが共有されていない、新聞を活用した情宣活動、委員からも情報の話もあった。渡波の人口流出を防ぐための市民参画をとの話もあった。少しは市民の代表と市の協調が進んでいると感じていた。

委員の意見には賛成で、大川小学校の問題をここで取り上げることは行うべきではない。

○会長 具体的に前進もあると。いいことで、震災そのものが凄まじいので、一気に解決しない。小さな事例をつみかさしていくことは重要。今日はここまでとし、進め方については、副会長も含め議論、調整をさせていただく。

以上